

# in モルディブ 吉川志乃

よしかわ・しの  
出身地：大阪府 職種：水泳  
派遣期間：2004年4月～2006年4月

水泳指導が  
受け継がれて  
いました！



今のチームの同僚、子どもたちと。前列右から2人目が吉川さん。

私は2004年から2年間、モルディブ共和国の水泳協会で水泳隊員として活動しました。6歳の初心者から22歳の国際大会に出場する選手まで、200名以上に水泳指導を行いました。モルディブにはプールがないため、活動場所は海。宗教上の理由から、多くの子どもたちは練習も試合も服を着たままでした。そんな状況でも、子どもたちはいつも水泳を楽しみに来てくれました。しかし、一部のコーチは時間通りに来なかったり、海に入らないことがあったりと、すべてが順風満帆とは言えない中で奮闘の日々でした。

任期が終了して帰国後もしばらく関係は続きましたが、次第に連絡も途絶えがちに。5年ぶりにモルディブの水泳場をひょっこりと訪れたとき、協力隊時代の同僚たちが水泳協会から独立し、自分たちでスイミングクラブをいくつも立ち上げていました。それには本当に驚きました。かつては時間通りに来なかったコーチが、新しく雇われたコーチに泳ぎ方の補助の仕方や時間の大切さを教えていたのです。また、コーチの中には私が隊員時代に指導していた子どもたちがいて、とてもうれしく思いました。クラブの設立により飛躍的に水泳人口が増加し、大人のクラスも開設されて、幅広い年代に水泳が広がっていました。

そして活動を終えて12年後に、なんと私が現地の水泳クラブから誘いを受け、現在はコーチとして所属しています。私の活動が引き継がれていたことに、隊員時代の同僚と今の同僚、水泳協会関係者、保護者そして子どもたちに感謝の気持ちでいっぱいです。これからもどのような形になろうとも絆は続いていくと信じています。



上左：海につくられたマレ水泳場。  
上右：2015年にマレの水泳場を訪れ、コーチたちと再会した吉川さん（前列右から2人目）。  
左：協力隊時代の吉川さん（右）。



モルディブ

首都：マレ

## ブータン事務所から ひとこと

旧型から最新の車まで、多様な自動車  
が走るブータン。職業訓練校の講師た  
ちも修理の経験が少ないため、講師と  
生徒、両方の人材育成のためには、坂  
本さんのような実務経験の豊富な人が  
欠かせません。坂本さんは教え方が「て  
いねいでわかりやすい」と人気で、とくに  
「失敗から学ばせる」やり方は生徒た  
ちにとって新鮮だったようです。



企画調査員（ボランティア事業）\*  
並木 亮（なみき・りょう）

\*隊員の活動全般を支援する「ボランティア事業  
支援のプロ」。また相手国の要望を調査して要  
請開拓を行うなど、隊員活動全体の運営を行う。



電気の流れは  
わかったかな？

同僚の講師に向けて行った電子制御故障探求法のトレーニング。電気の  
流れや制御の仕組みなどを伝えながら、故障の原因を探していく。



屋外でも  
授業は続く

気温が下がったある日。教室に暖房がないので、日の当たる屋外で授業。



教材車から取り外したトランスミッション（変速機）を生徒に見せて構造を  
説明する坂本さん（左から2人目）。



# JICA海外協力隊 がゆく Vol. 18

南アジア地域のブータン、モルディブで  
活動する二人の隊員を紹介します。



新旧のどんな自動車でも  
的確に整備できる  
人材を育てたい！

## in ブータン 坂本達也

さかもと・たつや 32歳  
出身地：群馬県 職種：自動車整備士  
任期：2018年1月～2020年7月

私が派遣されたのは首都にあ  
るティンプー職業訓練校。自動  
車整備に特化した学校で、今後、  
自動車電装コース、ハイブリッ  
ドと電気自動車コースが開講予  
定です。現在、10代後半から20  
代後半の生徒が約50名在籍して  
います。

ブータンでは、環境への悪影  
響や急峻な山道での故障による  
事故を避けるため中古車の輸入  
が禁止されていることもあり、  
新車の購入が一般的です。一方、  
自動車は高価なので、多くの入  
は買い替えずに修理して長く  
乗っています。つまり、旧型の  
車から最新の車までが混在して  
いて、自動車整備には多様な技  
術が必要とされます。

その人材育成を担っているの  
が配属先の職業訓練校です。し  
かし、自動車や部品の製造を外  
国に頼っているブータンでは、  
最新の電子制御式の自動車整備  
技術を教えることが難しいため、  
JICA 海外協力隊に講師と  
しての自動車整備士派遣の要請  
がありました。私は自動車整備  
士として国内外で働いてきまし  
た。さまざまな国籍の人たちと  
意思疎通をはかりながら働いた  
ニュージーランドでの経験も生  
きるのではと考えて応募し、派

遣が決まりました。  
派遣先でまず行ったのは、授  
業を通して生徒に安全確認の手  
順を習得させること。そのうえ  
で、ときには日本の自動車整備  
士の教科書を参考にしながら、  
自動車整備の基本作業である部  
品の構造や着脱と分解、点検方  
法を座学と実習で指導していま  
す。

課題は、電子制御式自動車の  
整備技術の向上でした。学校に  
は、エンジン不調の原因がわか  
らず同僚の講師たちが2年以上  
修理できなかった電子制御式エ  
ンジンの教材車がありました。  
現地の技術者と一緒に修理した  
ときに実感したのは、電気の基  
礎と電子制御の知識が足りない  
ということ。同僚たちに向けた  
講義と、あえて電気回路を故障  
させた自動車を故障診断させる  
電子制御故障探求法のトレーニ  
ングを実施しました。自動車の  
中で電気の流れや電子制御式  
エンジンの構造の理解が進みま  
した。

まだまだ適切に整備されてい  
る車が少ないブータンですが、  
この学校で学んだ生徒たちが、  
自信をもって自動車整備の仕事  
をしていくことを期待してい  
ます。